

## (公財)交流協会 学生交流事業

交流協会では、日本と台湾との若者世代の交流促進のため様々な招聘・派遣事業を実施しています。平成 23 年 10 月 30 日から 11 月 6 日まで台湾の高校生の環境教育向上と日本理解を一層深めるために高校生 20 名を兵庫・京都に招聘しました。

招聘メンバーの多くは初めての訪日でしたが、神戸の人と未来の防災センターの見学及び環境学習、食品廃棄物リサイクル並びに舞子高校との交流の他、ホームステイなど短期間の日程ながらも多くのプログラムを通じ環境学習や文化・習慣に触れることが出来たようです。

今回招聘した 20 名のうち、男性 3 名女性 3 名の訪日報告書をここにご紹介致します。

### 2011 年台湾高校生環境教育研修訪日団 感想報告書

国立永靖高級工業職業学校  
江浙展

今回の研修で私は多くの日本語と知識を学びました。そして各国が現在環境保護を重視している意識を感じました。交流協会の手配にはとても感謝しています。八日間の日程で阪神大震災を記念した博物館や舞子高校との交流、そしてエコの森京都での工場学習などがあり、日本と台湾が環境教育という分野に大きく力を入れていることが分かりました。

京エコロジーセンターで、日本では一日一人当たり平均約 478 本のペットボトル、量にして 335 リットルもの水を使用していることを知りました。これは日本人の風呂に入る習慣に依るものから水量が台湾人より多くなるのです。ですから京都市は各小学校に屋内雨水収集装置を設置し、屋内を冬は暖かく夏は涼しく保っており、電気と水の費用を節約しているのです。地球温暖化も重要な議題です。車の運転・エアコン・風呂・ナイロン袋の使用は全て二酸化炭素の生産に繋がります。京都市の京エコロジーセンターでは大自然と



その中の生き物とが共生し、一緒に美しい未来を作り出し、後世により良い生活環境を残そうというメッセージを発出しています。ゴミの減量は必要不可欠です。日本ではゴミ処理にお金を支払う必要があります。特に関西では 5 kg のゴミに対して 45 円必要です。そして 1 週間に 2 度しかゴミの回収がありません。実際 5 kg のゴミを処理するコストは 287 円にもなります。日本ではトイレトペーパーは直接便器の中に流しますし、リサイクルもします。台湾では現在まだこのような措置は行われていません。

エコの森京都を参観しました。そこは食べ残しを肥料や飼料にする専門的な工場です。工場長の信念に私はとても心打たれました。徹底的な循環

利用を行っているのです。台湾でも多くの人がこの方面に投資を行っています。私は工場に足を踏み入れたその瞬間とても喜びを感じました。私が最も好きな化学的な機械が目に飛び込んできたからです。工場長からの紹介が終わり、私は自分の将来の方向性がはっきりと見えました。また質疑応答の時には多くの分からなかった疑問を尋ねました。工場長は私の質問に答えてくれ、彼が経営しているこの工場が完璧なものだと感じました。その時私はこの方面に進むために引き続き努力しようと思いました。帰国後、私はどのようにしてペットボトル中のポリ塩化ビニル (PVC) とポリエチレン (PE) を回収もしくは分解・再利用できるかを研究し始めました。これは私が現在研究室で考えている方向性ですが、ポリ塩化ビニルは冷媒 (フロン炭化物:  $CF_2Cl_2$ ) のように塩素原子を放出します。それはオゾン層の破壊だけでなく、発癌物質をも放出し、直接健康に影響を与えます。もちろん現在市場に出回っているペットボトルは比較的エコロジーなポリ乳酸が使われています。しかしよりエコロジーを強化するため、私はウルツ・フィッティッヒ反応、つまりハロゲン元素に取って代わる反応を利用することで、塩素原子に代替または分解し、アルコール類を加え、グリセリンを生成します。これは保湿効果がある医薬品です。化学の領域に関してとても勉強になりました。そしてエコの森京都の工場でも多くの化学に関する専門知識や専門用語を学ぶことができました。台湾は今までのように回収部分にのみ力を入れるのではなく、今後は廃棄物の再利用にも力を入れるべきであり、これは私たちが今後克服し、貢献しなければならない課題です。

人と未来の防災センターではとても恐ろしい3Dの映像を見ました。本当に心から震える映像で、3Dの効果を通して、私たちは一層震災当時の状況を体感することができました。失った物はとても大きいです。台湾には日本同様、自然災害

と防災の教育に関してより重視して欲しいと思います。

神戸市舞子高校の全ての学科はみな環境保護を主とした教育理念を持っていることに気づきました。環境教育専門の教室があり、防災練習の授業が用意されている日本で初めてこの科が設立された学校です。日本では小学校からこのような教育が始まり、各学校ではみな関連する記念館や博物館を見学します。それはとても重要な教育内容の一つです。そして平均的に一週間に一度防災訓練が行われています。このことから見ても、環境教育とは小さい頃から教え始めるものなのです。私は彼らとの交流の中で、二国間の違いを学ぶことができました。環境教育だけでなく、生活習慣、信仰する宗教、授業状況や防災教育の推進など、とても勉強になりました。私は日本の学生と連絡を取り、言わば一つの種となり、これら学んだ知識を台湾に持ち帰り、太陽の下、多くの場所にそれらを蒔こうと思います。

ホームステイでは多くの文化方面に関して体験することができました。ご主人のTさんは温かく迎え入れてくれ、私たちを宇治市内全体に連れて行ってくれました。あの日はちょうど日本の文化の日だったので、宇治市では「宇治十帖スタンプラリー」という活動が行われていました。この活動を通して私はより日本の文化遺産を理解することができ、大きく視野を広げることができました。源氏ロマンという源氏物語に倣った宇治のスポットである、東屋・椎本・手習・浮舟・蜻蛉・総角・早蕨・夢浮橋・橋姫・宿木・橋寺・宇治上神社・茶壺型ポスト・平等院などを見学しました。もちろん私が一番好きな茶道も体験し、とても嬉しかったです。日本の家庭内における独特な礼儀や習慣なども多く学び、日本と台湾の衣食住の違いを体験することができました。とても深く学べ、私にとって将来日本へ再度教育旅行で訪れる際の大きな手助けとなりました。



まち・コミュニケーションでは T<sub>1</sub>さんの紹介で、地震で 6434 名の方が亡くなったことを知りました。その原因として家屋倒壊によるものが 47%、家具の下敷きが 31%、火災が 7%。これらは直接的な要因です。そして震災後の疾病や伝染病等間接的な要因は 15%を占めます。しかし最も重要なことは生存者の中で、約 70%の人が近隣住民に助け出されていて、20%が自分で解決し、消防隊員等に救出されたのはたった 10%でしかないことです。これにより日本政府は二つの改善を意識しました。一つは家屋の耐震措置、二つ目は友人や近隣住民との関係改善です。ですから近隣住民との付き合いに関する考え方は政府の大きな教育が必要です。

日本人は絶え間なく生活の改善を行い、絶え間なく彼らが直面した問題を解決してきました。最も重要なことは彼らが常に理念を持っていて、それをずっと「続けている」ことです。

台湾と日本はどちらも地震帯の上に位置しています。日本政府がこんなにも地震と防災を重視しているのを見て、私たちは日本とこんなにも近いのに、もし地震や津波が発生したとして、日本は適切な対応ができるでしょうが、私たち台湾は自分勝手に行動するのでしょうか？これこそが私たち台湾人が重視すべきテーマです。日本から私は多くの防災研究の素材を持ち帰りました。そして

積極的に日本の防災に関する HP を閲覧し、どのように防災や環境破壊の減少を行えば良いか資料を探しました。私は必ず今後一層多くの防災に関する情報を学び、多くの研究を行い、日台双方が直面する問題に建設的な考え方や意見を提起しようと思います。

最後に、私は種になりたいと思います。日本で吸収した養分を台湾に持ち帰り、そこで大きく花開き、このような理念を伝え続け、各地にその理念を植え続けたいと思います。

## 訪日の日程

台中市忠明高級中学  
童懷億

飛行機が滑走路をゆっくりと移動し、オレンジ色の夕日、しとしとと降っている小雨、これが私の神戸の第一印象です。

私たちは舞子高校で多くの日本の高校生と交流しました。討論を通してお互いの文化を理解しました。経済・教育・国の特徴や国としてもっと改善すべき点などです。お互いを知り得た後私たちはお互いに名刺を交換しました。今後ずっと連絡が続くことを期待しながら。

日本で私たちは多くの博物館や記念碑を訪れま





した。その中で二つの場所が特に印象に残りました。まず、人と未来の防災センターで見た「東日本大震災 津波の被害」という映像です。その中には地震発生時の状況が映し出されていました。廃墟の中で燃え盛る火、悲しみと怒りの声、そして泣き声が絶えず耳に入ってきます。地獄、恐らくこれがこの状況を表す一番適当な言葉だと思います。

映像終了後、私は不意に隣の人をみると目から涙を流していました。恐らく 30 歳くらいの人でしたが、大地震発生から十数年経っているのに、この地震はこの人に消えることのない痛みを残したのだと思います。

痛みが過ぎ去り、優しさを覚え、広い心を身につけ、おおらかさを学んだのです。そして生命とは本来一つ一つの痛みが積み重なったものなのだと気づいたのです。それは生命誕生の母体の痛みから命が尽きる肉体の痛みまでであり、心の痛み、特に永遠の別れがあるからこそ、心と心がつながり、私たちは愛の彼方と繋がれるのです。

私たちが 921 大地震を経験して 10 数年経ちました。傷は未だに癒えていません。私と同年齢の友人は既にそれを過去のものだと忘れてる人もいます。いつも防災訓練の際には軽い気持ちで行っています。一方日本の学生は防災訓練を重視し、また積極的に行っています。とても残念です

が、紛れもない事実なのです。今後私自身を含め同級生も真面目にこれらに取り組みたいと思います。突然何かが起こった時、あの訓練がとても重要だったと気づいても手遅れなのですから。

もう一カ所、私がとても印象に残ったのは「東遊園地 阪神大震災記念碑」です。地下には震災で亡くなった人たちの名前が刻まれていました。Sさんが「この人たちの犠牲によって日本人の災害の意識を呼び起こしているのです。」と言いました。多くの人が犠牲になり、多くの家が倒壊したにも関わらず、日本人は諦めることなく、それをバネにして建築構造を改良し防災措置を施すなど、ゆっくりと大きな一歩を踏み出しているのです。

失敗した時自信を失うかもしれません。しかし自信を失えば良いことはありません。その時自分自身に対して一体問題はどこであったのかを問いかけます。自信を失った時こそ物事を疑い、そして進歩するのです。これらは前へと進む原動力なのです。

最後、ホームステイは今回の旅行で一番忘れられない思い出となりました。初めて会った時、彼らは私に英語で話しかけてくれました。この行為に私はとても驚かされました。日本語を話さないだけでなく、英語もとても上手なのです。私たちは台湾と日本に関する話を多く話しました。それに多くの名所旧跡を見学しました。夜には食卓を囲んでたこ焼きをつくりました。とても貴重な体験ができました。

ホームステイ家族と会話をしていると、彼らがとても楽観的であり、自分が所有している全てを大事にしていることがわかりました。「どのような視点から人生を見て、どのような収穫を得ることが出来るか」、ということを経験から学びました。人生を楽しく成功させるためには第一に受け入れることを学ぶことです。現在の人生を受け入れ、それに対して感謝することです。たとえ愉



快でない状況に置かれたとしても、自分には何もない、と悲観するのではなく、自分が今所有しているものに対して感謝するのです。それが成功なのです。

この8日間で見聞したことは私の想像を超えていました。全てが素晴らしく、多くのことを学びました。一つのことの終了は別のことの始まりです。今回の旅行は終わってしまいましたが、台湾にいてもホームステイ家族や舞子高校の学生たちとはずっと連絡が取れると信じています。

飛行機が滑走路をゆっくりと移動し、白い朝日と晴れた空、気持ちのいい人たち、綺麗な町並み、多くの素晴らしいものがこの旅行の中で私の心に刻まれました。

## 日本環境教育交流団の感想

台北市麗山高中  
李翊茹

緊張した面持ちで私は日本に到着しました。3度目の関西地域訪問でしたが、どこか違うような気がして、気持ちも以前とは異なるものでした。恐らく交流という任務を背負っているからでしょう。私はこのような気持ちで日本の大地に足を踏み入れました。

二日目午前中、私たちはまち・コミュニケーションで阪神大震災の対策や今年3月11日に発生した東日本大震災で活用された阪神大震災の経験について学びました。このような綿綿と続く進歩の精神を私たちは見習わなければなりません。午後には神戸市の舞子高校へ行きました。ここは交流の最重要訪問地です。私たちは舞子高校生から学校の説明を聞き、その後班に分かれて活動を始めました。日本の学生と一緒に台湾と日本の長所や短所、よく発生する災害の種類などを話し合いました。みんな、自分が話せる言葉を振り絞って話をしました。私は日本語がそんなに上手ではありませんが、漢字という補助を得ながらコミュニケーションをとることができました。みんなで協力し合い完成した壁新聞を見ると、とても充実感がこみ上げてきました。その後の発表も大きな学





習の場でした。他の班の発表を見ることで、自分たちの班の話し合いとどこが違うのかを考え、より多く両国の長短所を知ることができました。S<sub>1</sub>組長やL校長が言っていたように、その日だけが重要なのではなく、台湾に戻った後の交流が大事なのです。現在私は当時の班員だった一人とEメールで連絡をし、お互いの文化やその違いなどを理解しようとしています。私たちは台湾と日本が一緒に蒔いた種なのです。10年後20年後もしかすると両国を繋ぐ大樹に育つかも知れません！

その後数日は環境教育団体を訪問しました。参観をしている時に多くの小学生を見かけましたが、小さい頃からちゃんと教育しているようで、日本の環境教育が徹底されているのだと感じました。台湾では学校でリサイクルや二酸化炭素減少を宣伝しているだけで、学生たちにより深く理解させようとはしていません。これらの団体を訪問して、私たち高校生が全く知らないことがあるのだと分かりました。それらは私たちが見習うべき点です。

しかし今回の旅行で日本では食べ残しを回収していないことに気づきました。ホームステイの時、お母さんが町内でリサイクルをしているおじさんに聞いてくれましたが、おじさんはそれは日本では難しい部分だと答えました。これも私たちが交流したからこそ発見できた点です。

エコの森京都の考え方もとても実用的でまたエ

コロジーでした。加工を経て不要な食材が動物の飼料へと生まれ変わります。これはエコロジーというだけでなく、この業界に活路を見出す新しい産業です。

この八日間で団員の間には感情が培われてきました。今回の交流は日本人とだけ行うのではなく、台湾全土の19の学校との交流でもあり、違う街から来た仲間と知り合うことができました。私たちは短い数日で心を通わせ、心の中の大きな位置を占めるようになりました。最終日の夕食にみんな感想を発表していた時、みんなは素の一面をさらけ出しました。泣きながら台湾に戻りたくないと話したり、ずっと一緒に日本にいて交流を続けたいと話したりしました。もしかするとこれは私たちが予想もしていなかった収穫なのかもしれません。

離れがたい想いと多くの収穫を持って私たちは台湾という場所に戻りました。学校に戻り、クラスメイトと今回の交流の様子や学んだ内容を分かち合いました。

これで終わりではありません。これは私たちが環境保護の重要性を訴え、日台学生が交流を行う始まりなのです。

## 2011年台湾高校生環境教育研修訪日団 報告書

高雄市立高雄女子高級中學  
黃宜雯

### 一・各行程の感想

#### ①まち・コミュニケーション（防災学習）

まち・コミュニケーションは現地の住民が阪神大震災後自立的に設立した復興を管理・計画した専門的組織です。ここで私たちは阪神大震災に関する多くの知識を勉強することができました。それは以前社会科で習うような写真だけのものでは

なく、話をして下さった T<sub>1</sub>さんは分かりやすく写真や地図を用いて震災全体の様子や最も被害が大きかった御蔵地区の被災状況や復興状況を話してくれました。私は日本人の災害に対する粘り強くて確かな学習精神を学ぶことができました。

御蔵地区は地震発生後約 80%が火災に巻き込まれ、地震の直接的原因及び間接的原因で多くの人の命が失われました。しかし日本人はこれに気落ちすることなく、死傷した原因や災害の影響を減少させる方法を探し出したのです。例えばビルの耐震構造を強化したり、公園の地下に貯水槽を作ったりと実質的な運用を考えた復興方法です。そして阪神大震災で学んだ経験は東日本大震災でも用いられました。段ボールを避難所に利用し被災者にプライベートな空間を持たせると同時に風邪等の蔓延を防ぐことで、お年寄りの死亡が大幅に減少しました。二度と同じ失敗は繰り返さないという精神を私たちは見習うべきです。

ここで私が一番印象に残ったのは日本人の粘り強さです。家が倒壊しても諦めることなくすぐに再建する。会社や工場が燃えても、ため息をつくことなく、社員が無事だったため短時間で会社の経営を軌道に乗せる。これらは人々自身の力であり、人と人との強力な絆であり、お互いに助け合い、協力した結果です。人は自分自身と相手とを信じていれば、苦しいこと・困難なことを恐れることはなく、不可能であろうと思われたことすら達成することができるのです！汗水出して耕してできた果実ほど甘い物はないのです。

## ②人と未来の防災センター（防災学習）、神戸港震災メモリアルパーク、東遊園地（阪神大震災記念碑）

この三カ所の場所を訪問して私は災害時にあるべき態度をより一層感じることができました。この三カ所は日本人が痛みと向き合った勇気を体現しています。多くの人は自分が傷つくことを顧み

たりはしません。しかし日本人は勇気をもってそれらと向き合い、教育や記念公園等を通して阪神大震災の痛みや経験を心の中に焼き付けています。忘れないように次世代へと受け継ぎ、被災し亡くなった方の思いを無駄にすることなく更に努力し、より良い防災方法を考えるのです。これは日本がこんなにも多くの、また悲惨な天災に襲われながらも災害後すぐに立ち上がる理由なのではないでしょうか。

## ③京エコロジーセンター（環境学習）

京エコロジーセンターとは COP 3 記念館のことです。COP 3 は京都議定書に関して討論した会議であり、それは人類が環境保護を重視し、実際の行動をとった一つの記念すべき会議です。京エコロジーセンターが COP 3 記念館であって京都議定書記念館でない理由は、一番重要なことは過程であり、結果ではないからです。

京エコロジーセンターは環境保護に関して学ぶのにはとてもいい場所です。可愛い挿絵や一目瞭然の展示品、スタッフの詳しい説明、それらによってとても効率的に多くの知識を吸収することができ、環境保護の概念と実用的な方法を心に刻むことができました。チャンスさえあれば一人でも多くの人に学んでもらい、それを実践することで、地球の環境破壊を減速させるのです。展示の中で最も印象に残ったものは食品廃棄物に関する部分でした。日本人は台湾人同様にとっても浪費しています。そのため食べ残しや食品廃棄物がとても多く、京エコロジーセンターでは一つのことを強調しています。それは個人の重要性です。一人一人が責任を負い、努力することこそとても意義のあることです。一人の環境保護活動は大きな成果を上げませんが、一人の一步が他の人にも影響を与え、大きな効果となり、環境保護の強大な力となるのです。この考え方は多くの人に身に付いていないものだと思います。

#### ④エコの森京都（食品廃棄物リサイクル学習）

エコの森京都は日本にたくさんある食品廃棄物リサイクル会社の一つです。そこでは食品廃棄物から豚や鶏の飼料を生産しています。工場を見学した際匂いがとても辛かったですが、社員の努力は衣服に残った匂いのように私の心に留まりました。これらの会社は日本全体の60~70%の食品廃棄物をリサイクルしています。台湾もこの技術を学んで欲しいと思います。これは商業利益と環境保護を兼ね備えた方法です。台湾では食べ残しの回収はありますが、回収後は直接的な利用しかされておらず、応用範囲は限定され、加工後の衛生的問題は比較になりません。ですからこれらの方法は台湾でも試してみる価値はあると思います。

#### ⑤舞子高校での交流、ホームステイ

台湾の日常生活で外国人と直接関わるチャンスはほとんどありません。しかしその国の人たちと直接交流することはその国を理解する直接的な方法です。ですから今回の機会は私にとってとても収穫の多いものになり、より日本を理解することができました。以前テレビで日本の番組を見ることはありました。しかし画面を通すと現実感が失われてしまいます。今回の経験を通して、私は日本人の情熱を感じることができました。以前は日本人に対して冷淡で表面的な印象しか持っていませんでしたが、実際はとても温かく感じました。私は日本語ができませんが、彼らと多くのことを話しました。多くのことは言語を介する必要はありません。人と人とのコミュニケーションは言語を超えるのです。これは恐らく所謂以心伝心というものでしょう。以前はどういう意味かわかりませんでしたが、今回の貴重な経験を通してようやく理解できました。

#### ⑥観光と体験

今回の研修で私たちは神社の参拝や和服・温泉等、多くの日本文化体験を行いました。これらを通して以前では学べなかったことを学ぶことができました。万卷の書を読むは万里の路を行くに及ばない、ということです。神社での参拝方法は台湾のとは全く異なります。参拝の目的はやはり心の安らぎを求めて行くのですが、日本人は台湾人よりも神や神の領域に対する畏敬が大きいようです。その他の体験でも私は多くのことを学びました。以前には関係する本を何度も読んだことはありましたが、実際自分で行ってみると違った感覚になります。自分の目で見ることと、メディアを通して見ることでは少し違いが出てきます。しかしこれら「本家本元」はとても貴重な体験で、より本当の日本を理解できました。

#### 二・全体の感想と結論

今回の研修前、私は日本に対してはただ単純な憧れでしかありませんでした。今回の研修を経て、私の憧れは理解と好意へと深まりました。これらの学習や体験から私は日本人の一つ大きな特徴と長所を感じることができました。それは個人の定義です。個人とは一人という意味ではなく、一つの団体の中の一個人と意味を拡大できるということです。一人一人の力はとても重要です。一人一人の行為は他人に影響を与えます。日本人はそのことをとてもよく理解しています。ですから彼らは道徳心を持ち、責任を全うしているのです。この概念は彼らの日常生活の中にまで染み渡っています。仕事・環境保護・相互扶助・防災関係、全てにおいてです。これはとても尊い精神であり、本来の個人の概念よりも現実的で、且つ正確です。私は自己紹介で今回の目的は災害発生時に自分や他人を助けられる知識を得ることだと言いました。しかし私が学んだことは私が期待した以上のものでした。現代社会において知識を得ることは容易です。しかし実際に行動する人はほとんど

どいません。今回の研修で私は多くの知識を得ました。そして更に重要なことは、私は無限に広がる精神を学んだということです。

### 三・心からの感謝

今回の素晴らしい経験を得られ、本当に多くの人に感謝しなければなりません。まず引率して下さった先生方。L 校長、S<sub>1</sub> 組長、T<sub>2</sub> さん、T<sub>3</sub> さん、S さん、彼らの苦勞がなければこんな素晴らしい研修はありえなかったでしょう。本当に感謝しています。お疲れさまでした。そして交流協会がこのような機会を与えてくれたことに感謝します。私は多くのことを学び多くの初めての経験をしました。そして違った日本を見ることができました。ありがとうございます！

## 訪日の感想

国立大甲高工  
王思閔

初めて海外に行く私は興奮と期待で踊りだしそのような気持ちを押さえることが出来ませんでした。飛行機が離陸する時、私の心は飛行機と一緒に前へと走り出し、美しい日本へと誘われたのです。日本に到着した時には小雨が降っていましたが、私の日本を愛する気持ちには何の影響もありませんでした。

まち・コミュニケーションの防災学習で、私は地震の威力や人間関係の重要性（災害が発生したら被災者をすばやく救出できるのは近隣住民なので）を理解しました。この変遷の速い現代社会では近隣住民とのコミュニケーションを計ることで、災害が発生した時にはお互いを助け合うことができるのです。現在日本の公園には貯水設備を設置されています。なぜなら阪神大震災発生時、水がなかったため火を消すことができず、火の勢



いがとても速く広がってしまったのです。公園には排水管が直接下水道に繋がっています(写真1、白い部分)。これは災害が発生した時にその効果を発揮し、またとても衛生的な方法です。

舞子高校（環境防災科）を訪問した時、日本の高校生が真面目に環境と防災に関して研究している態度や外国からの客をもてなす温かさには感心せざるをえませんでした。

お互いがお互いの国のことを理解しようとしていた時、私たちはどちらもお互いの母語を使わず英語を用いて双方の国の風習・グルメ・政治などについて話しをしました。それがまた一層現実的であり具体的に日本の風情を体現していました。

「人と未来の防災センター」を訪れた時「東日本大震災」が発生した当時の映像を見ました。そして日本人の団結力を知ることができました。彼らは団結の力によって壊れた家や道路を素早く再建していました。これは一般的に言われる「団結力は強い」ということなのでしょう。この施設では古い住居は如何にして耐震力を補強するか、新しい家は如何にして建てれば地震に強くなるか、そして室内の家具をどのように配置し、耐震設備をどのように設置すれば地震に耐えるのか、等を



学ぶことができます。それらの事前予防こそが命を守る無二の方法なのです。

そして研修旅行中には多くの記念碑や記念公園を参観しました。これらは後世の人に対する「先代の出来事を忘れず、後代の師とすべし」の教えです。後世に災害の防止やその意識を理解させてくれるのです。例えば「東遊園地 阪神大震災記念碑」では記念碑に被災して亡くなった人の名前が刻まれています。それを見た人は追悼の思いと災害への警戒心を生じさせるのです。

ホームステイを経て、日本に関して一層理解が深まりました。ホームステイ先のお母さんは私たちにより日本を知ってもらおう、日本を身近に感じてもらうと、様々な場所に私たちを連れて行ってくれました。例えば日本の電車に乗ったり日本の美味しい食事を食べたり、日本式の建築や多くの神社を参観させてくれました。一番印象に

残ったのは「伏見稲荷大社」です。そこには数多くの「鳥居(写真2)」があります。あの壮観な鳥居を見ると日本人を尊敬せずにはられません。最後は名残惜しく感じるほどの建築で、また規模も大きいので一日では廻りきれませんでした。

太陽が西に傾き始め、私たちは電車でお母さんの家に行きました。最初に足を踏み入れた時とても驚きました。とても綺麗だったのです！夜の帳が落ちる頃、お母さんは夕食を作り始めました。私たちも手伝い、初めてたこ焼きを作りました。とても楽しかったです！また食事をしている時、私たちは次々と自分の国について紹介しました。そして私が驚いたのは彼らの台湾に対する認識度が私の想像を超えていたことです。日台には兄弟のような関係が存在しているのですね！

最後に和服体験の時間です。このように和服を着るとまるで日本に溶け込んだかのようなようでした。そして和服を着て(写真3)日本の美しい木造建築を楽しめたのです。清水寺まで歩いて行くと、外国人が私たち偽りの日本人の写真を撮りたがっていました。異国に来て多くの人や物と知り合え、形容しがたい素晴らしい感覚に陥りました。

今回の教育旅行は自分自身を大きく成長させてくれました。台湾各地の友人ができました。日本で国外の風習や習慣、人情や出来事を学びました。広く大きな地球という一つの村について理解を深めることができました。

## 日本での輝かしい八日間

台北市中山女子高級中學  
徐楚雲

日本は秩序があり、礼儀正しく、とても清潔な、心安らぐ気持ちのいい国で、多くの素晴らしい点が今でもまだ私の頭の中に残っています。

今回は私がこの小さな台湾という島から初めて

外に出て、世界に飛び出した第一歩になりました。私の目には清潔な道路、平らな地面が飛び込み、日本の街を歩いているととても気持ちがよく、私の視野を広げてくれました。

日本は表面的には進歩的で美しい、欠点などないような国に見えますが、背後には暗く振り返りたくない過去があります。台湾同様、日本はプレートがとても不安定な地震帯の上にあり、常に予測が難しい地震に苛まれているのです。将来、科学技術が発展したら別として、現在の技術では災害の影響を免れることはできません。1995年、神戸で致命的な大地震が発生し、多くの住民が身近な家族や友人を失い、消すことができない陰を落としました。台湾に身を置く人たちも同じ感覚を持っていると思います。1999年の921大地震で台湾は甚大な被害を受けました。世界各地の援助のおかげで、台湾は再び立ち上がることができました。

神戸の大地震発生現場では多くの家が非情にも崩れ、人々もその中に巻き込まれました。まち・コミュニケーションのT<sub>1</sub>さんも被災者の一人です。6つの会社のうち5つを地震によって発生した火災で焼失しました。会社の社員は無事でしたが、全てが焼けてしまったのです。これは一般的にはとても大きな打撃です。しかし彼は諦めるわけではなく、それをバネにして、失った全てを補い、再び立ち上がったのです。これはとても辛いものだったと思います。「ゼロ」から「会社の再建」はとても困難なものです。しかし彼らは常に「諦めなければいずれ新しい状況を作り出せる」と信じています。確固とした態度と決して諦めない気持ちがあるので、最終的に望んだ結果が生まれるのです。

最も尊敬すべきは「ゼロから気持ちを切り替え歩みだす」に至るまでにたった11日しかかかっていないことです。彼らの心は地震によって潰されたわけでないことがわかります。これはとても

見習うべき精神です！地震を通して神戸の人は「近隣住民」の重要性を感じました。もちろん状況によって変わってはきますが、諺で「遠くの親戚より近くの他人」と言います。このような大きな災害を経験したことで、台湾で921大地震が発生した際には多大な援助をしてくれました。人というのはお互いに支え合っているのですね！お互いが良好な関係を保っていれば、相手が困難な状況に陥った時には最大の援助ができるのです。これはとても良好な相互扶助関係です。

2011年3月に「東日本大震災」が発生しました。多くの建物は基礎がしっかりしていなかったため、崩れたり傾いたりしました。震災後、人類は更なる教訓を得たのです。それは自分の住んでいる場所の特徴を知っておくことこそが、災害発生の防護措置となるということです。これはみんなが知っていなければならない考え方です。決して「事後処理」ではなく、その時が来て後悔してももう遅いのです。

京エコロジーセンターは感嘆せざるをえない場所でした。ここで日本の節電節水方法を学びました。そして微生物を培養している容器の中を見て、その原理を勉強しました。台北では必ず台北市指定のゴミ袋を使用するよう規定されています。京都では5年前からこの計画が開始されました。当初住民は猛反対していたそうですが、成果を上げてからは賛成派が増え、反対の声は少なくなったそうです。とても素晴らしい始まりだと思います！

環境に関する知識以外に、私は日本の独特な文化を多く経験しました。日本人の食べる食べ物は台湾とは少し異なり、毎食とても新鮮な感覚に陥りました。あまり食べ慣れませんでした。とても貴重な体験であったため、一口ずつ味わって食べ、日本人の飲食文化を感じ取りました。食べ慣れないからといって、食べられるものを疎かにしてはいけません。私たちが日本にいる間にちょう

ど「文化の日」がありました。街中にはお父さんお母さんが和服を着た小さな子供を連れてお寺にお参りに行っていました。想像していたよりも壮観で、とても視野が広がりました。大部分が制服を着たタクシー運転手の中に、和服を着た女性ドライバーがいました。とてもカッコ良かったです！

もちろん、私たちも日本の象徴である和服を着ました。和服を着たその瞬間、私たちはおしとやかな女性・男気溢れる男性に変身を遂げました。とてもカッコ良かったです。歩いているときは大股で歩くことはできず、階段もゆっくりとしか登れず多少疲れましたが、この素晴らしい思い出は一生忘れられないものになりました。そして私にとってもよくしてくれたホームステイ先のお母さんが美容院に連れて行って、「芸妓さんの髪型」にセットしてくれました。まるで「日本人になった」ような感覚で、感激と珍しさと素晴らしさが交わった、何とも言えない複雑な気持ちでした！このとても貴重な体験は私の大切な思い出となりました。和服を着て清水寺を歩くなんて、とても得難い体験です！残念なことに楽しい時間はとても速く過ぎ去り、和服を返す時間となりました・・・

日本のお風呂もまたとても珍しい場所でした。最初は「一糸まとわぬ」ことにとても驚きましたが、日本に来たのですから郷に入れば郷に従わなければなりません。みんなで何も隠すことなく向き合えた感覚は素晴らしかったです！

所謂「岡目八目」というやつで、私は外国人の立場から異国の情緒を楽しむことができました！日本では台湾には見られない多くの優れた点がありました。それらは感嘆に留まらず、羨ましささ

え覚えます。日本では何事にも効率的で、生活水準も驚嘆するほど高いです。トイレの設計も人のためを考えてあり、便器が使用前に洗浄されるだけでなく、使用後も自動で流れて行きます。そして「お尻を洗うかどうか」の選択もできるのです。トイレを流し終えたら、節水の手洗い装置があり、手を洗い終えた水は便器の後ろにあるタンクに貯められるのです。本当に「先進的な日本」を感じることができました！

使用効率を上げるために、エレベーターは「高階層」と「低階層」に分かれているため、人で溢れるようなことはありません。それは時間を浪費しないための移動手段であり、とても素晴らしい設計です。

一つ欠けている点を上げるとするならば、日本では「信号の色が変わる秒数を教えてくれない」ことでした。しかしこれは私の日本に対する高評価に影響するものではありません。なぜなら日本は本当に素晴らしい場所だからです。ホテルのスタッフは「90度のおじぎ」で挨拶をしてくれますし、バスで横入りするようなことはほとんど見かけませんでした。常にちゃんと列に並んでいます！道路にゴミが落ちていることなど更に少なく、日本人はとても規律正しいのです！

今回日本に来て、とても多くのことを学びました。環境保護の知識を学び、日本の伝統文化を体験しました。日本の高度な科学技術や人との接し方を見ることができました。台湾に輸入すべきことが多すぎて一言では表せません！

とても価値があり、永遠に後悔しない、色んなものを持ち帰ることが出来た旅でした！今後同じようなチャンスと巡りあり、もっと勉強し、もっと体験したいです！